

distinct height anomalies over East Asia. This mode also influences the mid-latitude SST by changing the low-level wind. The associated SST anomalies appear as a meridional tripole pattern in the North Atlantic that develops from winter to spring. The time coefficients of this mode exhibit a predominant decadal signal superimposed on a linear trend, with an abrupt sign reversal at the end of the 1980's. The presence of this mode may suggest a possible link between the atmospheric internal variability and anomalies in the Earth's surface conditions or somewhere else in the climate system which acts as long-term "memory".

## 日本気象学会1997年度秋季大会シンポジウムのお知らせ —北極圏の 대기環境と物質循環—

日 時：1997年10月8日(水)・(大会2日目)  
15時00分～17時00分

場 所：第1会場(北海道大学学術交流会館2～3F  
講堂)

司 会：塩谷雅人(北海道大学大学院地球環境科学研究科)

### 主 旨

近年、水蒸気や 대기微量成分の時間・空間分布を通して、さまざまなスケールの 대기現象とその背後にひそむ物理・化学過程について考えていこうという研究が活発に行われるようになってきています。このシンポジウムでは、特に北半球の極域を中心として、地表付近から成層圏にまで視野を広げ、それぞれの領域で特徴的に見られる大気の流れ、およびそれに伴う微量成分等の分布の動態について講演していただきます。そしてその中から、物質循環というキーワードで 대기環境をとらえることの面白さや重要性が見えてくるものと期待しています。

### プログラム

- 1 「北極圏の擾乱の構造と水輸送」  
遊馬芳雄(北海道大学大学院理学研究科)
- 2 「北極圏の 대기環境汚染」  
太田幸雄(北海道大学大学院工学研究科)
- 3 「対流圏の大規模な物質循環と水循環」  
山崎孝治(北海道大学大学院地球環境科学研究科)
- 4 「衛星センサー-ILASによる北極成層圏の観測」  
神沢 博(国立環境研究所)

### 問い合わせ先

〒060 札幌市北区北10条西5丁目  
北海道大学大学院地球環境科学研究科  
 대기海洋圏環境科学専攻 塩谷雅人  
TEL：011-706-2366  
FAX：011-726-6234  
E-mail：shiotani@ees.hokudai.ac.jp